

令和4年度 研究推進計画書

- 1 研究形態 発表校 (○) 準備校1 () 準備校2 ()
(該当するものに○をつけてください)

2 学校教育目標

すべてのことに全力で取り組む生徒の育成

「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成

3 前年度の研究

(1) テーマ

「できる」「わかる」授業の追求

～ふり返りを大切にし、学習意欲を高める授業づくり～

(2) 成果と課題

【成果】

- ・校内研究授業を各学期に実施し、研究仮説にもとづいた授業づくりについて職員で理解を深めた。
- ・「ふり返り」の視点を学校で統一し、掲示物を作成した。それをもとに教科で統一したふり返りシートを作成したり、視点をもったりできるよう教科部会で検討を行った。
- ・校内学習アンケート「ふり返りをすることによって気づいたことや考えが深まるか」の設問に対し、肯定的回答が1年生5.3ポイント、2年生5.1ポイント上昇した。特に、2年生はいつもそうだと回答する生徒が14.7ポイント上昇している。
- ・ICT主任が計画し、タブレット端末の日常的な使用、毎日の持ち帰りを行った。学校評価では、「先生はいろいろと工夫して教えてくれている」の項目は、肯定的な解答をしている生徒は95%と6.4ポイント上昇した。
- ・プチ研(自主研修)を9回実施した。特にICT研修は教員の習熟度別で研修を設定し、スキルアップを図った。

【課題】

- ・校内学習アンケート「授業で楽しいと感じるときはどんなときか」に「疑問を見つけたとき」と回答する生徒が各学年30名程度である。研究仮説にある「問い」を持つ、という授業展開についてより一層の授業研究が必要である。
- ・職員全体の研修は夏季研修や学期に1回程度の研修にとどまっている。自主研修では、参加できない教員もおり、「全職員で学ぶ場」の設定が必要である。
- ・家庭学習の力が弱く、テスト計画や連絡に「予定」を書くことが難しい生徒が大半を占める。「勉強の方法」や「計画の立て方」について手立てが必要である。
- ・全国学力・学習状況調査の結果から国・数ともに無回答率が高い。わからない問題に対して、粘り強く取り組む力が弱いことが挙げられる。

4 本年度の研究

(1) テーマ

「できる」「わかる」授業の追求
～ふり返りを大切にし、学習意欲を高める授業づくり～

研究仮説

学力向上 授業のねらいを明確にし、ふり返りを行うことで確かな学力を身につけると、主体的に学ぶことができる。
自己有用感 信頼関係のある学びのなかで、「問い」のある学び合いをつくることで、自己有用感を高めることができる。

(2) テーマの設定の理由

これからの新しい時代で生徒たちが活躍していくためには、新しい時代が求める資質・能力を生徒たちへ育む必要がある。その第一は、学習に対する意欲である。学習意欲を高めることによって、生徒は新しい知識・技能を獲得し、それらの知識・技能を理解して使うことで、思考力・判断力・表現力が養われる。そして、その学びを人生や社会につなげ、これからの新しい時代を築いていく。

昨年度から同テーマのもと取り組んできた。全国学力・学習状況調査やC R T等の学習の定着を図る調査や定期テスト等においては、まだ十分な成果をあげるまでには至っていない。しかし、学校評価の結果からは、生徒の学習意欲に対する変化が見受けられる。「授業は楽しく、わかりやすい」の項目は、肯定的な解答をしている生徒が85.1%と昨年度より13ポイント上がっている。「先生はいろいろと工夫して教えてくれている」の項目は、肯定的な解答をしている生徒は95%と6.4ポイント上がっている。「授業内容でわかりにくいことについて、先生に質問しやすい」の項目は、74.3%と8.3ポイント上がっている。

これまでの取り組みが生徒の学習意欲に対して、少しずつ成果を上げていることがわかる。その一つとして、「ふり返り」の取り組みの効果が大きいと考えられる。「ふり返り」による自らの学習活動の見直しを行うことで、生徒自身が「できる」「わかる」を実感し、主体的な学びへとつながっていく。

また、他者との対話的な学び合いのなかで、自己の考えを広げ、深めるなかで「問い」が生まれてくる。自ら「問い」を生み出すことは、深い学びへとつながり、学力向上へとつなげられる。

このように、生徒の「ふり返り」を「問い」と結びつけ、生徒自身が「問い」を生み出せるような力を育てていきたい。生徒一人一人が「問い」を持つ習慣をもつことは、生徒が自分自身の生き方を考えるキャリア形成にもつながっていく。これまでの取り組みを発展させ、生徒の「ふり返り」を活かした「問い」を構築する授業改善を行うことをテーマ設定とした。

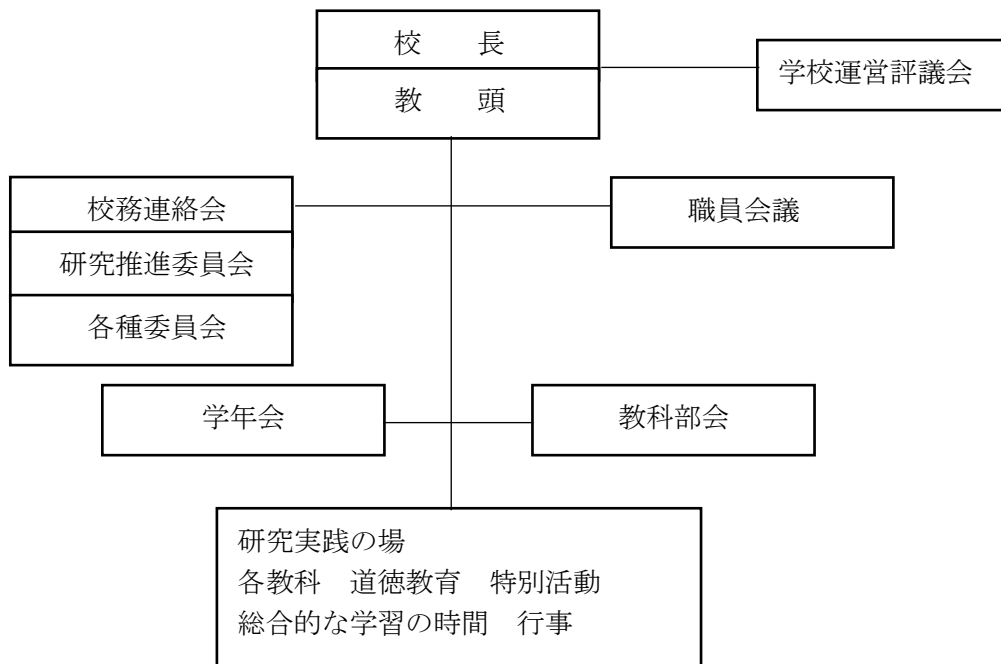
(3) 具体的な実践内容

①「できる」「わかる」授業の実践

- ・目標の明確化
生徒へつけたい力がわかる、ゴールの生徒の姿がイメージできる目標の設定
- ・ふり返り
深い学びへつながる「ふり返り」
次の「問い」へつながる「ふり返り」
- ・「問い」のある学び合い
生徒自身が「問い」をもつ、学び合いの場がある授業
個々の生徒に対応した授業
わかりやすくするためのスモールステップを仕掛けた授業
個々を認める、褒める場面のある授業

- ・ I C T機器の活用
- ・ 学習の手引きの活用
 - 学ぶ意義を理解させ、学習に対する見通しを持たせる。
- ②公開授業の実施
 - すべての教師が年に1回、授業を公開する。
- ③データの検証
 - 全国学力・学習状況調査、C R T、学習アンケート（毎学期）、hyper-QU（年2回）、スポーツテストの分析
- ④授業評価アンケート
 - 学期ごとに生徒の授業評価アンケートを行い、授業改善につなげる。
- ⑤教科部会の充実
 - 教科部会を行い、ふり返りの仕方や学習意欲を高める取り組みの共通理解を図る。
- ⑥自主研修会の実施
 - 年間で7回の自主研修会「プチ研」を行う。
- ⑦小中連携
 - 校区の小学校との実践交流

(3) 研究推進体制



アドバイザー
武庫川女子大学 神原一之 教授
伊丹市教育委員会指導主事

(4) 研究推進計画

月	内 容	月	内 容
4	・研究概要の研修 ・アレルギー対応研修 ・生徒理解研修 ・「学習の手引き」作成 ・プチ研①	10	・プチ研⑥
5	・プチ研②	11	・市内研究発表会（11月29日）
6	・授業研究会（6月28日）	12	・「学習の手引き」作成
7	・幼小中合同研修 ・プチ研③	1	・校内研修会 ・hyper-QU 分析② ・プチ研⑦
8	・夏季校内研修会 ・hyper-QU 分析① ・「学習の手引き」作成 ・プチ研④	2	・C R T分析
9	・プチ研⑤	3	・「学習の手引き」作成

5 研究領域・教科等（該当するものに○をつけてください）

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| (1) () 学級経営 | (2) (○) 教科…教科名「全教科」 |
| (3) () 総合的な学習 | (4) () 教育課程 |
| (5) () 道徳教育 | (6) () 人権教育 |
| (7) () 環境教育 | (8) () 福祉教育 |
| (9) () 生徒指導 | (10) () 情報教育 |
| (11) () 国際理解教育 | (12) () 特別支援教育 |
| (13) () 性教育 | (14) (○) 評価 |
| (15) () 特別活動 | (16) () その他「 」 |

6 研究発表日

発表日：令和4年11月29日（火）曜日